

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874001619		
法人名	医療法人社団 だいたうクリニック		
事業所名	グループホーム 花みずき (ふじ)		
所在地	兵庫県姫路市豊富町豊富915-2		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町村受理日	平成29年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成28年	12月	19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人の理事長が主治医で24時間連絡が取れ、指示を受ける体制ができています。 ・週に1回看護師が勤務・薬剤師も来訪しており、健康管理を把握している。 ・田畑に囲まれ、環境の良いところに建てられており、自然に触れる事ができる。 ・地域交流が充実しており、近隣の中学校の生徒に来訪して頂いたり、消防署・消防団と連携し避難訓練を行ったりと協力して頂いている。 ・利用者主体のケアを意識し支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周りには田園風景が広がり、四季毎に美しさを見せる。とんがり帽子の時計台がシンボルとなっている事業所の建物は、開設後15年を経て、そんな風景にも馴染んでいる。法人母体クリニックの院長である理事長は、在宅療養支援に力を注ぎながら認知症ケアを実践し、毎年開催される家族会では、家族の悩みと不安に対して丁寧に応えている。医療連携を実現しているケアの中で、利用者が本来持っている能力に応じて、家事の役割分担をこなしながら日々暮らしている。恒例の「作品展」では、利用者の自信作が壁面や展示台を飾り、その出来栄えに目を見張る。ベテラン職員による質の高いケアが既に行われているが、今後、更なる研鑽を目指すためにも職員自らが率先して知恵とパワーを発揮されることを、大いに期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示し、基本理念に基づき支援している。	5つの理念は、そのままケアに活かせる内容となっている。職員は、利用者と馴染みの関係を築き、個性豊かな暮らしを大切にしながら、チームで日々支援している。理念を事業所の内部に掲示しているが、外部には発信していない。	理念をホームページなどでも発信されたらどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時、挨拶や言葉を交わしたり、花や野菜を頂いたりしている。秋祭りの時には、休憩場所として駐車場を提供している。	地元の若い衆とは勇壮な秋祭りで、近隣の中学生とはトライやるウィークや英語劇を通じて、交歓の場を持っている。利用者全員が自治会の会員になっているが、利用者の心身状態が重症化しているため、行事への参加は少なくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会時に地域に向けて話をしている。避難訓練にも参加して頂き、認知症の方の見守り体制に協力してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の様子や取り組みを報告し、話し合っている。そこでの意見をもとに、改善できるかどうか話し合っている。議事録を家族や市役所に報告している。	ほぼ隔月に開催し、利用者、家族、地域住民、地域包括が出席している。事業所からの状況報告の他に、他の事業所で発生した事故や事件の報道を参考にして振り返りを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に地域包括センターの職員が参加している。管理者が市の担当者との連絡を取り、協力関係を築いている。	運営推進会議に市職員の出席は無いが、議事録を毎回送っている。今年度は共用型デイサービスを立ち上げた為、市を訪問する機会が増え、その都度協力を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で学び、常に意識し、拘束しないケアを行っている。	玄関のドアは夜間を除いて施錠していない。ごく稀に職員が気付かない間に、利用者が建物から出て行ってしまふ事がある。経験に基づいた探す対象方角・エリアなどについて手順書を作成し、職員は理解している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学び、虐待防止に努めている、日々、利用者の様子観察を行い、状態の変化がないか、気を付けている。	心理的虐待につながる「やってしまったこと」や「言ってしまったこと」に、職員自身が気付くこと、又、気付いた者が直ぐに注意をする様にしている。職員が問題を独りで抱え込んでしまうなど、ストレスにならない様に管理者は個々の思いを把握するよう心掛けている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もいるので、勉強会で学び理解しようと努めている。	制度に関する説明資料は準備していない。契約時に制度についての説明は行っていないが、成年後見制度を利用している利用者も数名おられ、職員はある程度の知識は持っている。	簡単な資料を準備して、契約時点で説明すると共に、家族会で事例として紹介されたらどうであろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明し、理解して頂くようにしている。不安や疑問点があれば、その都度説明している。	契約前に必ず本人と面談し、見学をしてもらっている。契約の内容に関しては、重要事項説明書に基づき説明を行ったうえで、家族等の疑問に答えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回ずつ開催される、家族会及びユニット毎の家族会にて、意見や要望を聴くことができるようにしている。また、玄関ホールに意見箱を設置している。	家族会には、20家族程が参加している。運用面での要望や意見は出て来ない。それぞれの家族が抱えている入居者の症状への不安などに対して、医師である理事長から丁寧に答えている。議事録を全家族に送っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との面接が年2回あり、意見を言える機会がある。	職員の希望や意見は、年2回の面談の他、機会が有る都度聴いている。ケアの方法に関して職員から意見を求め、実務に反映した事も有る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見や希望等を伝えられる環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、勉強会で学んでいる。講師を招くこともあり、外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム連絡会に参加している。他のグループホームとの交流を通じ、サービスの向上に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面接を行ったり、家族から情報を得ている。本人の気持ちを聴き取る機会を多く持つように努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安な事、要望などを聴く機会を設けたり、定期的に連絡し、状態の把握に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要としている支援を見極め、グループホームでの生活が可能か判断する。必要に応じ、他のサービス利用の情報を提供している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中で、昔からの知恵や習わし等を教えてもらったり、スタッフと一緒に料理をし、調理方法等を教えてもらっている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や面会時に状況を報告している。状態に変化があれば、家族にすぐ相談し協力して頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に面会して頂けるよう明るい雰囲気づくりを心掛けている。	面会時間の制限も無く、家族や友人が気軽に訪問する。季報の「花だより」と月一回の手紙で、近況を家族に知らせている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を把握し、利用者同士が楽しく過ごせるよう、スタッフが間に入り、支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族の方より電話や訪問を頂いており、相談を受ける等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、希望や意向を聞き、把握している。はっきり伝えられない方は、意向を推察し、本人本位になるよう支援している。	コミュニケーションが困難な利用者が数名いるが、入居時のフェイスシートに適時目を通したり、入居後のコミュニケーションの積み重ねで、想いを汲み取っている。おしゃれの毛染め、好みの洋服の選択等、職員が支援しながらも、利用者自身が決めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にバックグラウンドシートを記入して頂き、情報収集したり、日常会話の中で情報の把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に関わりながら、観察を行い記録していく。連絡帳も活用し、スタッフ全員が把握できるよう努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングを行い、利用者が望んでいること、よりよく生活できる為にどうしたら良いかを話し合い、気持ちを汲み取った介護計画を作成し、家族の希望も聞き、取り入れている。	入居者1人に対して、職員1名の主担当を決めている。日々の介護記録と観察記録に基づき、毎月1回、各ユニット全員で全入居者のモニタリングをする。6ヶ月毎の計画作成では、医師・看護師・薬剤師からの情報を加味して、担当職員が作成したものを、計画作成担当者が確認している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、行動、ケアの内容を細かく記入し、スタッフ間で情報を共有しながら、介護計画の見直しを行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じてニーズを把握し、柔軟に対応出来るよう努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年一回、消防署の立ち合いのもと、避難訓練を行っている。地元消防団、近隣の方々にも協力して頂いている。時には、地域の行事にも参加している。中学よりトライやるを受け入れたり、ESSクラブの英語での演劇を披露してもらっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人であるかかりつけ医に24時間連絡が取り、適切な医療を受けられる体制ができている。	母体医療機関が主治医となっており、定期的な往診により、日常的な健康管理が確保されている。それ以外では緊急時のみ、職員が付き添っている。4月から精神科の医師による往診も加わり、こまめな服薬調整等が可能になり、より認知症への手厚い体制となった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、看護師に来てもらい、相談・指導が受けられる。急変時でも対応できる体制となっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の関係者、主治医、家族との情報交換を行い、早期退院に向け、話し合いを行う。	普段の体調管理により、入院回避に努めているが、やむをえない転倒による骨折入院があることから、家族には居室内でのリスクについて常々伝えている。早期退院が可能となるよう、医療機関とは継続して密な連携を図り、事業所での受け入れに努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、家族、主治医、管理者、職員で話し合い、方針を共有している。	契約時に事業所の方針を説明している。医師よりターミナルの指示を受けた場合は、利用者、家族の意向を確認したうえで、同意書を取っている。状態変化等で入院した場合も、その都度意向を確認するなど、不安のないよう事業所からも対応を説明している。最近、看取った事例があり、職員は家族が安心して見守れるよう配慮に努めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成している。いつでも対応できるようにしている。毎年一回、消防署指導のもと救命救急の訓練を受けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に8回、避難訓練を実施している。日中、夜間想定で行い、通報、初期消火、避難誘導を身につけるよう努めている。年に一回、地域の方、消防団も参加して頂き、協力体制を築いている。	ほとんどは、夜間想定で行っている。毎回、避難経路の確認を利用者と共に行い、普段から実践力を高めるよう努めている。年1回は、地域住民との協力体制での総合的な訓練とし、消防署からの協力も得ている。事業所が地域の避難所となる可能性も考えている。	

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、丁寧な言葉遣いや対応を心掛けている。	職員が虐待についての外部研修を受講し、それを職員に伝達することで周知を図った。職員間で、指示的な言葉かけには特に注意し、相互に注意喚起している。排泄時での声かけや失敗した時の対応などには、周りの状況を見て、さりげない配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とゆっくり話せる時間を大切に、思いや希望を聴き出し、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、その人らしく過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装や化粧をし、身だしなみを整えられるよう支援している。希望に応じ訪問美容師にカットしてもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じてスタッフと一緒に楽しい雰囲気の中で食事作りができるように工夫している。片付けも自発的に行っている。	食材は定期的に配達してもらっている。メニューは、利用者の好みを参考にし、朝食は副菜の品数が多く、昼食は比較的簡単な一品物で、全て手作りしている。誕生日には、利用者の食べたい物やケーキを用意し、みんなで祝う。職員も共に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に応じて、食事量や形態を調節している。食事量が少なければ、栄養補助食やゼリーで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じ口腔ケアができるよう支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、介助の必要な方は時間を見計らってトイレ誘導を行っている。	多くは自分でトイレに行っているが、さりげなく職員が声かけする場合もある。拒否の場合は、タイミングをずらすなど工夫して声かけしている。こまめな声かけ、トイレ誘導により、パットの使用を減らすことができている。夜間は利用者の希望により、安心のためポータブルトイレをベッド横に置いて休んでいる人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、状況を把握し、献立の工夫や水分摂取量に注意する。散歩を日課とし、レクリエーションに運動を取り入れている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望やタイミングに合わせて入浴してもらっている。ゆったりとした気持ちで入れるよう支援している。	週2~3回が目安となっているが、利用者の身体状況によっては、毎日入る事もある。2人介助でシャワー浴の場合もある。事前に室内を十分温めるなどの準備をし、冷えを防いでいる。職員とのおしゃべりを一番の楽しみにしている人もいる。冬至にはゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自由に居室に戻り、休むことができる。夜間、よく眠れるよう、散歩やレクリエーションをし、生活にメリハリをつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週一回、薬剤師の訪問時に説明を受け、理解している。服薬管理表にて確認、誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ拭き、雑巾洗い、洗濯たたみ、野菜の皮むき、野菜切り等積極的に手伝ってもらい、役割を持たれている。散歩は日課となっており、気分転換を図れるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聴きながら、お花見や外食、ドライブ等に出かけている。買いたい物があれば、スタッフと一緒に買い物にも出かけている。家族の方と出かける利用者もいる。	1日に1回は外に出るよう心がけ、近隣を散歩している。春の花見と紅葉狩り、外食も恒例となっており、利用者は毎回楽しみにしている。個々の希望する外出は家族の協力で実現している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金を預かり、スタッフが管理代行している。お金を所持している利用者は買い物に行った際、自分で支払いができるよう支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいと希望があれば、かけている。親族、友人等からの電話も取り次いでいる。携帯電話を所持している利用者は、居室にて自由にできるよう支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物を飾ったり、作品を掲示し、明るく居心地よく過ごせるよう工夫している。カーテンや窓の開閉等で室温やまぶしさの調節をしている。	キッチンと一体となった広いリビングは、窓の部分も広く、常に自然光が差し込み明るい。大きなテレビが置かれ、昼食時、利用者は楽しそうに観ている。浴室、脱衣所は十分広くトイレともつながり、別室として洗濯機置き場、汚物処理室が備わり、職員が行き来しやすい環境となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合った利用者同士が話をしたり、テレビを観られるよう席の位置を考えている。ソファや廊下、ベンチ等で思い思いに過ごして頂いている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っていた馴染みの家具や家電、仏壇を持ち込んだり、家族の写真等も飾られている。	ベッド、洗面台、クローゼットが常設されている。床はカーペットがすでに敷かれ、床暖房となっている。壁には利用者の好きなプロマイドや手作りの作品が一面に飾られていたり、お気に入りの椅子を購入するなど、利用者の嗜好を取り入れ居心地良く過ごしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札や写真を飾ったり、トイレの表示も大きく掲げることにより、混乱や失敗を防ぎ、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		